

# 臨 床 看 護 学

## 成人看護学(外科系)研究室

教 授	田 澤 賢 次
講 師	梶 原 睦 子
助 手	安 田 智 美
助 手	小 林 祐 子

### ◆ 著 書

- 1) 田澤賢次：全身的ケアー基礎疾患の理解と援助ー。創傷ケア基準シリーズ(1)ー褥創ケアガイドンスー。日本看護協会出版社, 235-246, 1998.
- 2) 田澤賢次：副作用対策としての免疫療法。新しい癌免疫化学療法の指診ーQOLを重視した癌薬物療法ー(佐治重豊, 峠哲哉編), 医薬ジャーナル社, 66-71, 1999.

### ◆ 原 著

- 1) 田澤賢次：食物繊維性分による大腸がん発生予防の研究ー特に、アップルペクチンの大腸がん発生予防と肝転移予防メカニズムの解析, アップルペクチンから得られたオリゴ糖によるフリーラジカル消去活性の検討からー。平成10年度青森県地場産業技術研究開発費補助事業報告書(ペクチンオリゴ糖の大量生産システムの開発と新規利用法に関する研究)。青森県オリゴ糖利用研究開発協同組合, 40-47, 1999.
- 2) 田澤賢次, 半明敬子, 並川宏英, 水本 淳, 老田尚子, 大上英夫, 斎藤智裕, 岡本政広, 山下 巖, 小松かつ子, 済木育夫：アップルペクチンの大腸癌発生抑制ーアップルペクチンから抽出されたオリゴ糖の活性酸素抑制についてー。Biotherapy, 13(5) : 510-512, 1999.
- 3) 田澤賢次, 並川宏英, 大上英夫, 田澤賢一, 竹森 繁, 新井英樹, 斎藤智裕, 山本克弥：食物繊維と腸内フローラー大腸癌を中心にしてー。栄養評価と治療, 16(3) : 379-384, 1999.
- 4) 田澤賢次, 並川宏英, 老田尚子：玄米発酵食品の活性酸素消去活性。FOOD Style 21, III(9) : 32-37, 1999.
- 5) 田澤賢次：玄米酵素ハイ・ゲンキ(FBRA)における活性酸素抑制。健康ファミリー, 614(9), 102-109, 1999.
- 6) Ohsugi M., Fan W., Hase K., Xiong Q., Tezuka Y., Komatu K., Namba T., Saitoh T., Tazawa K., Kadota S. : Activeoxygen scavenging activity of traditional nourishingtonic herbal medicines and active

constituents of *Rhodiola sacra*. Journal of Ethnopharmacology, 67 : 111-119, 1999.

- 7) 半明敬子, 並川宏英, 斎藤智裕, 大上英夫, 田澤賢次：アップルペクチン由来オリゴ糖の活性酸素抑制に関する研究。富山医科薬科大学看護学会誌, 2 : 7-16, 1999.
- 8) 田中愛子, 関 大輔, 落合 宏, 田澤賢次：各種消毒剤の皮膚生理機能に及ぼす影響。富山医科薬科大学看護学会誌, 2 : 49-58, 1999.
- 9) 馬竹美穂, 落合 宏, 吉田郁子, 田澤賢次：薬剤感受性, dru塩基長および制限酵素断片分析のMRSA細菌株識別精度に関する研究。富山医科薬科大学看護学会誌, 2 : 151-160, 1999.
- 10) 田澤賢次：活性酸素とマイナスイオンの研究の歩みーその(1) 食品成分による大腸癌発生予防と肝転移制御にみる活性酸素との関連ー。全国マイナスイオン医学会誌, 3 : 24-32, 1999.
- 11) 田澤賢次：活性酸素とマイナスイオンの研究の歩みーその(2) 超純水, 蒸留水, 生理食塩水および各種輸液剤におけるマイナスイオン印加と酸化還元電位(ORP)の変化からみたヒドロキシラジカル抑制についてー。全国マイナスイオン医学会誌, 3 : 33-45, 1999.
- 12) 伊藤佳代子, 水上由紀, 瀬川美由紀, 永富 涙, 八塚美樹, 小池 潤, 安田智美, 小林祐子, 梶原睦子, 田澤賢次：弾性ストッキングにおける生理的動態の研究ー皮膚表面圧, 血流量, 血流速度の変化についてー。富山医科薬科大学医学会誌, 12(1) : 48-53, 1999.
- 13) 八塚美樹, 小田真由美, 伊藤佳代子, 水上由紀, 小池 潤, 安田智美, 小林祐子, 梶原睦子, 田澤賢次：芳香浴剤及び薬用入浴剤による温湯足浴時の皮膚温の経時的変化。富山医科薬科大学医学会誌, 12(1) : 54-58, 1999.

### ◆ 症例報告

- 1) Tazawa K., Shimoda M., Nagata T., Sasahara K., Bando T., Ansai Y., Shimizu T., Arai H., Sakamoto T., Fujimaki M., Tsukada K., Tazawa K. : Splenic artery aneurysm associated with systemic lupus erythematosus : Report of a case. Surgery Today (Jpn. J. Surg.) 29 : 76-79.1999.
- 2) 大上英夫, 新井英樹, 山崎一磨, 南村哲司, 岡本政広, 竹森 繁, 坂本 隆, 塚田一博, 田澤賢次：Strictureplastyを施行したCrohn病の2手術例。北陸外科会誌, 17(1) : 57-60, 1999.

### ◆ 総 説

- 1) 山本克弥, 田澤賢次, 新保雅弘. 痔瘻の病態・分類と治療方針. 外科治療, 80: 297-303, 1999.
  - 2) 田澤賢次: ストーマ管理に用いる皮膚保護剤のメカニズム—なぜ, 瘻孔周囲皮膚障害予防にも用いられているのか—. 消化器外科NURSING. 4(5): 1, 1999.
  - 3) 田澤賢次: 拳児を希望する女性の内痔核治療とステロイド使用. 日本医事新報, 4(5): 108-109, 1999.
  - 4) 田澤賢次, 安田智美, 小林祐子, 八塚美樹, 梶原睦子, 山本克弥, 竹森 繁, 新井英樹: 直腸・肛門機能検査. 消化器外科NURSING—消化器の検査のすべて—, 秋季増刊号 9: 209-216, 1999.
  - 5) 田澤賢次: 自然順応型の食生活のあり方(2). キチン・キトサン協会誌, 44: 15-18, 1999.
  - 6) 田澤賢次, 安田智美, 水上由紀, 小林祐子, 梶原睦子: スキンケアと創傷ドレッシングコーインの裏表—臨床看護, 25(8): 1272-1280, 1999.
  - 7) 田澤賢次: キチン・キトサンと活性酸素(1). キチン・キトサン協会誌, 48: 3-6, 1999.
  - 8) 田澤賢次: キチン・キトサンと活性酸素(2). キチン・キトサン協会誌, 49: 7-10, 1999.
  - 9) 竹森 繁, 田澤賢次: 腹会陰式直腸切断術 (Miles手術). 「消化器外科辞典」炭山嘉伸編, 343-345, メディカ出版, 東京, 1999.
  - 10) 竹森 繁, 田澤賢次: 骨盤内臓全摘術 (TPE手術). 「消化器外科辞典」炭山嘉伸編, 346-348, メディカ出版, 東京, 1999.
- ◆ 学会報告
- 1) 岡本政広, 山崎一磨, 南村哲司, 大上英夫, 竹森 繁, 新井英樹, 坂本 隆, 田澤賢次, 塚田一博: 直腸癌に対する側方リンパ節郭清の遠隔成績. 第50回大腸癌研究会, 1999, 1, 東京.
  - 2) 水上由紀, 前花知美, 吉井 忍, 安田智美, 八塚美樹, 小林祐子, 川西千恵美, 田澤賢次, 中林千代子, 竹森 繁, 新井英樹, 磯本浩晴: 皮膚保護剤の消化液に対する緩衝作用動態について. 第16回日本ストーマリハビリテーション学会, 1999, 2, 大阪.
  - 3) 梶原睦子, 八尋華那雄: 「ストーマの受容」の概念に関する看護婦の認識. 第16回日本ストーマリハビリテーション学会, 1999, 2, 大阪.
  - 4) 梶原睦子: オストメイトのQOLに影響する要因. 第16回日本ストーマリハビリテーション学会, 1999, 2, 大阪.
  - 5) 竹森 繁, 新井英樹, 田澤賢次, 坂本 隆, 塚田一博: 新しい創傷被覆材 hydropolymer dressing (TIELLE) の使用経験. 第100回日本外科学会総会, 1999, 3, 福岡
  - 6) 田澤賢次: 古代インド医学書アーユルヴェーダに基づく痔瘻のクシャラ・ストラ治療法. 第29回東北地区肛門疾患懇談会, 1999, 5, 仙台.
  - 7) 竹森 繁, 清水哲朗, 新井英樹, 坂本 隆, 塚田一博, 田澤賢次: DDSを考慮した局所免疫増強. 第20回日本癌免疫外科研究会, 1999, 5, 広島.
  - 8) 田澤賢次: 消化管の外科的治療—最近の大腸癌における進歩と展望—. 日本消化器病学会北陸支部・第一回教育講演会, 1999, 6, 富山.
  - 9) 山本克弥, 田澤賢次, 井原祐治, 齊藤智裕, 野本一博, 大西康晴: 痔疾患手術術前の大腸内視鏡検査について. 第73回日本消化器内視鏡学会北陸地方会, 1999, 6, 富山.
  - 10) 五箇猛一, 前田基一, 船木健一郎, 温井剛史, 堀田洋介, 荒川 元, 大西一朗, 加治正英, 木村寛伸, 藪下和久, 小西孝司, 辻 政彦, 三輪淳夫, 田内克典, 竹森 繁, 新井英樹, 田澤賢次, 塚田一博: 回腸癌を併発した家族性大腸腺腫症の一例. 第73回日本消化器内視鏡学会北陸地方会, 1999, 6, 富山.
  - 11) 日野浩司, 清水哲朗, 新井英樹, 斎藤光和, 霜田光義, 坂本 隆, 田澤賢次, 塚田一博: 進行再発癌に対するCircadian chemotherapy. 制癌問題研究会, 1999, 11, 富山.
  - 12) 田澤賢次, 並川宏英, 老田尚子, 伊藤佳代子, 八塚美樹, 小池 潤, 政田正弘, 前田浩明: MN G-3 (バイオブラン) の活性酸素消去能の検討. 第5回天然薬物研究方法論アカデミーシンポジウム, 1999, 7, 箱根.
  - 13) 田澤賢次: FBRAの抗酸化作用. 第一回FBRA全国研究会, 1999, 7, 洞爺湖.
  - 14) 田澤賢次, 並川宏英, 老田尚子, 伊藤佳代子, 八塚美樹, 小池 潤, 政田正弘, 前田浩明: MNG-3 (バイオブラン) の活性酸素消去能の検討. 第6回日本がん予防研究会, 1999, 7, 東京.
  - 15) 新井英樹, 南村哲司, 濱名俊泰, 山下 巖, 田内克典, 竹森 繁, 坂本 隆, 永瀬敏明, 田澤賢次, 塚田一博: 超低位前方切除術に対し, 平滑筋と外肛門括約筋の一部を使った新肛門管再建術 (ビデオセッション). 第54回日本消化器外科学会総会, 1999, 7, 名古屋.
  - 16) 新井英樹, 南村哲司, 濱名俊泰, 山下 巖, 田内克典, 竹森 繁, 坂本 隆, 永瀬敏明, 田澤賢次, 塚田一博: 大腸癌においてno-touch

- isolation technique は有用か. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999, 7, 名古屋.
- 17) 竹森 繁, 新井英樹, 岡本政広, 山崎一麿, 南村哲司, 坂本 隆, 塚田一博, 田澤賢次: 右側結腸癌の臨床病理学的検討—特にリンパ節転移からみた適切なリンパ節郭清—. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999, 7, 名古屋.
  - 18) 山本克弥, 田澤賢次, 井原祐治, 斎藤智裕, 野本一博, 大西康晴: 痔疾患手術予定者における術前的大腸内視鏡検査の有用性について. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999, 7, 名古屋.
  - 19) 田澤賢次, 並川宏英, 大上英夫, 斎藤智裕, 大西康晴, 斎藤光和: 食物繊維によるフリーラジカル抑制と門脈血浄化は肝転移を抑制する. 第17回日本ヒト細胞学会総会, 1999, 8, 指宿市.
  - 20) 山本克弥, 田澤賢次, 井原祐治: 肛門部膿皮症 (Perineal hidradenitis suppurativa) の治療. 第5回北陸消化器外科ビデオカンファレンス, 1999, 8, 金沢.
  - 21) 山本克弥, 井原祐治, 田澤賢次: 当院における大腸sm癌の検討. 第15回北陸大腸疾患研究会, 1999, 11, 富山.
  - 22) 青木詩恵, 水上由紀, 安田智美, 稲垣邦代, 八塚美樹, 伊藤佳代子, 小池 潤, 小林祐子, 梶原睦子, 田澤賢次: 皮膚保護剤の機能と S I S の配合割合の関係—特に緩衝作用について—. 第15回北陸ストーマ研究会, 1999, 9, 富山.
  - 23) 梶原睦子, 安田智美, 小林祐子, 田澤賢次: オストメイトの心理反応における精神的健康さ. 第15回北陸ストーマ研究会, 1999, 9, 富山.
  - 24) 善光寺知子, 石倉朋美, 宮田留美, 窪田明代, 中林千代子, 南村哲司, 竹森 繁, 新井英樹, 塚田一博, 田澤賢次: イレオストミー造設後にスキントラブルを起こした3症例のケア. 第15回北陸ストーマ研究会, 1999, 9, 富山.
  - 25) 大谷典子, 安田智美, 山下優子, 竹森 繁, 新井英樹, 寺山秀山, 梶原睦子, 田澤賢次, 根本秀美: 化学療法中にストーマ粘膜皮膚接合部が離開した1例. 第15回北陸ストーマ研究会, 1999, 9, 富山.
  - 26) 梶原睦子: ストーマの受容について. 北陸ストーマ研究会, 1999, 9, 富山.
  - 27) 田澤賢次, 伊藤佳代子, 並川宏英, 老田尚子, 八塚美樹, 大上英夫, 斎藤智裕: アップルペクチンの大腸癌抑制—抽出オリゴ糖による活性酸素抑制と加熱による増強効果—. 第58回日本癌学会総会, 1999, 9, 広島.
  - 28) 大上英夫, 田澤賢次, 並川宏英, 老田尚子, 水本 淳, 斎藤智裕, 渡辺雅孝: Evaluation of the radical scavenging activity of Glifola Frondosa by ESR. 第58回日本癌学会総会, 1999, 9, 広島.
  - 29) 田澤賢次, 小池 潤, 老田尚子, 並川宏英, 大西康晴, 済木育夫: 漢方方剤 (補中益気湯, 十全大補湯, 小柴胡湯, 四物湯および人参栄養湯) におけるフリーラジカル消去活性の検討. 第10回日本消化器癌発生学会, 1999, 9, 熊本.
  - 30) 小林祐子, 梶原睦子: 緩和ケア領域におけるアロマセラピー (芳香療法) の現状. 第23回死の臨床研究会, 1999, 9, 札幌.
  - 31) 梶原睦子: ストーマの受容について. 関西ストーマリハビリテーション研究会, 1999, 10, 神戸.
  - 32) 田澤賢次, 並川宏英, 老田尚子, 八塚美樹, 小池 潤, 伊藤佳代子, 吉水 正, 梅原幹巳: 玄米発酵食品 (FBRA) の活性酸素消去活性. 第2回日本代替医療学会, 1999, 10, 横浜.
  - 33) 田澤賢次: 活性酸素とマイナスイオン. 平成11年度全国マイナスイオン医学学会大会, 1999, 10, 熱海.
  - 34) Tazawa Kenji: Dietary fiber and cancer control. International Forum on Traditional Medicine, 1999, 10, Toyama.
  - 35) 田澤賢次, 伊藤佳代子, 並川宏英, 斎藤智裕, 大上英夫, 山本克弥, 竹森 繁, 新井英樹: 食物繊維による大腸癌発生予防の研究—アップルペクチンから分離されたオリゴ糖のフリーラジカル消去活性の検討—. 第54回日本大腸肛門病学会, 1999, 10, 東京.
  - 36) 竹森 繁, 新井英樹, 南村哲司, 田内克典, 山下 巖, 坂本 隆, 塚田一博, 田澤賢次: 進行癌類似形態を示したカルチノイドの3例. 第54回日本大腸肛門病学会, 1999, 10, 東京.
  - 37) 新井英樹, 山崎一麿, 濱名俊泰, 岡本政広, 南村哲司, 大上英夫, 山下 巖, 田内克典, 竹森 繁, 永瀬敏明, 坂本 隆, 田澤賢次, 塚田一博: 大腸癌においてno-touch isolation technique は, 肝転移防止に有用か. 第54回日本大腸肛門病学会, 1999, 10, 東京.
  - 38) 竹森 繁, 塚田一博, 南村哲司, 斎藤光和, 清水哲朗, 新井英樹, 坂本 隆, 田澤賢次, 長江英夫: Dextran Magnetiteを含有したalbumin microsphereを用いる肝腫瘍に対する選択的温熱療法の研究. 第37回日本癌治療学会総会, 1999, 10, 岐阜.

- 39) 田澤賢次, 新井英樹, 竹森 繁: Smooth muscle implanted neoplasty operation with the preservation of subcutaneous part of external anal sphincter. 第37回日本癌治療学会総会, 1999, 10, 岐阜.
- 40) 山本克弥, 井原祐治, 田澤賢次, 塚田一博: 当院における大腸sm癌の検討. 第15回北陸大腸疾患研究会, 1999, 11, 富山.
- 41) 田澤賢次: 食品成分と癌の制御. 第17回日本東方医学会, 1999, 11, 東京.
- 42) 田澤賢次: 創傷治癒メカニズムからみた皮膚保護剤. 第15回九州ストーマリハビリテーション研究会, 1999, 11, 大分.
- 43) 田澤賢次: なぜ今活性酸素か. 第1回成人看護学急性期集談会, 1999, 12, 富山.
- 44) 梶原睦子: 「オストミー適応尺度」の日本語版作成と信頼性の検討. 第1回成人看護学急性期集談会, 1999, 12, 富山.
- 45) 安田智美, 水上由紀, 田澤賢次: 皮膚保護剤の物性と機能—吸水時間・緩衝作用と貼付試験による剥離力と形状変化から—. 第1回成人看護学急性期集談会, 1999, 12, 富山.
- 46) 小林祐子: 緩和ケア領域におけるアロマセラピーの現状. 第1回成人看護学急性期集談会, 1999, 12, 富山.
- 47) 田澤賢次, 並川宏英, 老田尚子, 伊藤佳代子, 八塚美樹, 小池 潤, 政田正弘, 前田浩明: NK細胞活性作用を有するMGN-3 (バイオブラン)の活性酸素消去能の検討. 第12回日本バイオセラピー学会学術総会, 1999, 12, 横浜.
- 48) 小池 潤, 田澤賢次, 老田尚子, 八塚美樹, 伊藤佳代子, 並川宏英, 大西康晴, 済木育夫: 肝転移を抑制する漢方方剤 (十全大補湯, 四物湯, 人参栄養湯, 補中益気湯, 小柴胡湯)におけるフリーラジカル消去活性の検討. 第12回日本バイオセラピー学会学術総会, 1999, 12, 横浜.
- 49) 堀 亮太, 五箇猛一, 日野浩司, 斎藤光和, 竹森 繁, 新井英樹, 坂本 隆, 塚田一博, 田澤賢次: 子宮頸癌放射線治療後に発生した放射線誘発直腸癌の1例. 第23回富山医科薬科大学第2外科集談会, 1999, 12, 富山.
- 50) 井原祐治, 山本克弥, 新保雅弘, 田澤賢次: 単径ヘルニア修復術におけるPROLENE Hernia Systemの使用経験. 第23回富山医科薬科大学第2外科集談会, 1999, 12, 富山.
- 51) Tazawa K., Oida N., Namikawa H., Yatuzuka K., Ito K., Koike J., Ohkami H., Watanabe M.: Evaluation of the radical scavenging activity of Glifola Frondosa (MAITAKE) by ESR. 2nd International Conference on Food Factors - Chemistry and Health Promotion-, 1999, 12, Kyoto.
- 52) Ito K., Tazawa K., Namikawa H., Oida N., Koike J., Yatuzuka K., Ohkami H., Saito T.: Inhibitory effects of apple pectin in colon carcinogenesis-Evaluation of the radical scavenging activity of pectic oligosaccharide. 2nd International Conference on Food Factors - Chemistry and Health Promotion-, 1999, 12, Kyoto.
- 53) Namikawa H., Tazawa K., Oida N., Yatuzuka K., Koike J., Ito Yoshimizu T., Iwasaki T.: Evaluation of radical scavenging activity of FBRA (Fermented Bron Ricel by Aspergielus Oryge). 2nd International Conference on Food Factors - Chemistry and Health Promotion-, 1999, 12, Kyoto.
- ◆ その他
- 1) 田澤賢次: 食物繊維とガン予防へのアプローチ. 平成10年度第4回富山漢方会講演会, 1999, 2, 富山.
- 2) 田澤賢次: ストーマ周囲皮膚障害について. 第7回北信越ストーマリハビリテーション講習会 (基礎コース), 1999, 3, 新潟.
- 3) 田澤賢次: ストレスとその対処. 平成11年度太陽の会3月定例総会, 1999, 3, 富山.
- 4) 田澤賢次: 自然順応型の食生活のあり方. 平成11年度福井県水仙友の会定例研修会, 1999, 4, 福井.
- 5) 田澤賢次: 自然順応型の食事と癌予防. 平成11年度生命貯蓄区域体操の会定例総会, 1999, 4, 婦中町.
- 6) 田澤賢次: 食べ物の抗酸化力と生活習慣病. 第6回玄米酵素全国販売店研修会, 1999, 5, 札幌.
- 7) 田澤賢次: 排泄概論. 第36回日本ストーマリハビリテーション講習会 (第一回理論コース), 1999, 6, 東京.
- 8) 田澤賢次: 排泄制御学. 第36回日本ストーマリハビリテーション講習会 (第一回理論コース), 1999, 6, 東京.
- 9) 田澤賢次: 上皮防御・修復論. 第36回日本ストーマリハビリテーション講習会 (第一回理論コース), 1999, 6, 東京.
- 10) 梶原睦子: 障害心理学. 第36回日本ストーマリ

ハビリテーション講習会（第一回理論コース），  
1999，6，東京。

- 11) 田澤賢次：便に血が混じる—大腸癌と痔疾患—。  
平成11年度富山医科薬科大学公開講座。1999，6，  
富山。
- 12) 梶原睦子：オストメイトの心理サポート。東海  
ストーマリハビリテーション講習会，1999，7，  
愛知。
- 13) 梶原睦子：オストミーカウンセリング。九州ス  
トーマケア学習会，1999，8，福岡。
- 14) 田澤賢次：創傷治癒のメカニズム。平成11年度  
オールアイシンジュニア会，1999，8，入善町。
- 15) 安田智美：匂いの話。平成11年度太陽の会10月  
定例総会，1999，10，富山。
- 16) 梶原睦子：オストメイトに多い相談内容。平成  
11年度福井県水仙友の会定例研修会，1999，11，  
福井。
- 17) 田澤賢次：MGN-3（バイオブラン）の活性酸  
素消去作用。第3回バイオブラン研究会，1999，  
12，神戸。
- 18) 梶原睦子：障害心理学。第37回日本ストーマリ  
ハビリテーション講習会（第二回理論コース），  
1999，12，東京。
- 19) 梶原睦子：ストーマの合併症と対策。厚生連高  
岡病院泌尿器科患者会，1999，12，高岡市。
- 20) 田澤賢次：私のとっておき健康法(1)—食べた  
らすぐ寝て消化に専念する。スポーツ報知，  
1999，1。
- 21) 田澤賢次：私のとっておき健康法(2)—ミネラル  
補給にうってつけは海草類。スポーツ報知，1999，  
1。
- 22) 田澤賢次：玄米酵素—活性酸素の消去能増加を  
認める—。健康産業流通新聞，1999，1。
- 23) 田澤賢次：玄米酵素に優れた活性酸素消去能力—。  
財界さっぽろ，234，1999，1。
- 24) 田澤賢次：先端医療を行く—痔瘻—インドの伝  
承医学で治す—アルカリの糸で患部をしばるだけ—。  
サンデー毎日，51，1999，1。
- 25) 田澤賢次：次世代への期待—常識を疑うことか  
ら始めよ—。ふれあい—技術開発部特集号—，  
1999，1。

## 臨 床 看 護 学

### 小 児 看 護 学 研 究 室

教 授 広 瀬 幸 美  
助 手 飯 室 美 智 子

#### ◆ 著 書

- 1) 広瀬幸美，柳原真知子編集；看護婦国家試験パ  
スパス「小児看護学・母性看護学」。相馬朝江監  
修，学研，学習研究社メディカル出版，東京，  
1999。

#### ◆ 原 著

- 1) 広瀬幸美，矢野久子，馬場重好，小玉香津子，  
木村 哲：衛生的な手洗い実習における看護学生  
への教育効果—手指汚染を視覚的に即座に確認で  
きる装置を使用して—。環境感染14(2)，123-126，  
1999。

#### ◆ 学会発表

- 1) 広瀬幸美：先天性心疾患児をもつ母親の療育上  
の困難への対処とHealth Locus of Controlに  
ついて。第35回日本小児循環器学会看護セッシ  
ョン，1999，7，福岡。
- 2) Yano H., Okuzumi K., BaBa S., Hirose  
Y., Kodama K., Yoneyama A., Kimura S. :  
Control of an Epidemic of Oral Candidiasis  
in the Neonatal Room. 1st International  
Congress of the Asia Pacific Society of  
Infection Control, 1999, 8, Hong Kong.
- 3) 田中直美，土田悦子，早川清美，飯室美智子，  
北川洋子：排便コントロールに対するツボ指圧の  
検討。第30回日本看護協会—成人看護Ⅱ—，1999，  
7，高松。

#### ◆ その 他

- 1) 田中直美，土田悦子，早川清美，飯室美智子，  
北川洋子；排便コントロールに対するツボ指圧の  
検討。第30回日本看護協会論文集—成人看護Ⅱ—，  
104-106，1999。